

C 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒のシャープペンシルで記入することになっています。
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一〜三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

※ 大問一・二については著作権の関係により掲載できません。
引用した文章は次の通りです。

- ・大問一 岸政彦 「実在と合理性——生活史とは何か」
- ・大問二 青田麻未 『「ふつうの暮らし」を美学する——家から考える「日常美学」入門』

三 左の文章を読んで、後の設問に答えよ。(解答はすべて解答题紙に書くこと)

平中が色好みけるさかりに、市に行きけり。中ごろは、よき人々市に行きてなむ、色好むわざはしける。それに故後の宮の御たち、市に出でたる日になむありける。平中色好みかかりて、になう懸想しけり。のちに文をなむおこせたりける。女ども、「車なりし人はおほかりしを、たれにある文にか」となむ言ひやりける。さりければ、男のもとより、

もしきの袂のかずは見しかどもわきて思ひの色ぞこひしき

と言へりけるは、武蔵の守のむすめになむありける。それなむいと濃きかいねり着たりける。それをと思ふなりけり。さればその武蔵なむ、のちは返りごとはして、言ひつきにける。

かたち清げに髪長くなどして、よき若人になむありける。いといたう人々懸想しけれど、思ひあがりて男などもせでなむありける。されど、せちによはひければ、あひにけり。その朝に文もおこせず。夜まで音もせず。心うしと思ひあかして、またの日待てど文もおこせず。その夜した待ちけれど、朝に、つかふ人など、「いとあだにものしたまふと聞きし人を、ありありてかくあひたてまつりたまひて、みづからこそいとまもさはりたまふこともありとも、御文をだに奉りたまはぬ、心うきこと」などこれかれ言ふ。心地にも思ひゐたることを、人も言ひければ、心うくくやしと思ひて泣きけり。その夜、もしやと、思ひて待てど、また来ず。またの日も文もおこせず。すべて音もせで五六日になりぬ。

この女、音のみ泣きて、物も食はず。つかふ人など、「おほかたはなおぼしそ。かくてのみやみたまふべき御身にもあらず。人には知らせでやみたまひて、ことわざをもしたまうてむ」と言ひけり。ものも言はでこもりゐて、つかふ人にも見えて、いと長かりける髪をかい切りて、てづから尼になりにけり。つかふ人集りて泣きけれど、言ふかひもなし。「いと心うき身なれば、死なむと思ふにも死なれず。かくだになりて、おこなひをだにせむ。かしかましく、かくな人々言ひさわざそ」となむ言ひける。

(注) 1 平中——平貞文。平安時代の歌人で、色好みとして有名。

2 御たち——女房たち。

3 ももしきの——「宮中の」の意と「数多くの」の意を掛ける。

4 思ひ——「ひ」に「緋」(濃い赤)の意を掛ける。

5 濃き——濃い赤色の。

6 かいねり——練って柔らかくした絹の着物。

問

(A) ——線部(1)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 人格が優れた人々 2 経済的に豊かな人々 3 好奇心が強い人々

4 恋心が盛んな人々 5 身分が高い人々

(B) ——線部(2)の現代語訳を、八字以内で記せ。ただし句読点は含まない。

(C) 〰〰〰線部(イ)～(ホ)には、一つだけ行為の主体が異なるものがある。それはどれか。最も適当なものを次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

ちから一つ選び、番号で答えよ。

1 (イ) 2 (ロ) 3 (ハ) 4 (ニ) 5 (ホ)

(D) ——線部(a)～(c)の語の文法的説明として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、番号で答えよ。

ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

1 伝聞 2 完了 3 断定 4 存在 5 詠嘆 6 打消

(E) 本文中の和歌「もししきの袂のかずは……」の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 恋文を贈った相手が誰なのかを、それとなく示している。
- 2 自分の愛情の深さを信じてほしいと、強く訴えている。
- 3 誰が自分の思いを理解してくれるのか、素直に尋ねている。
- 4 これほど人を愛したことはない、大げさに口説いている。
- 5 誠意のなさが露見しそうなので、うまくごまかしている。

(F) 線部(3)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 慢心していて
- 2 思慮が深くて
- 3 理想が高くて
- 4 あまりにも夢中になって
- 5 ひどく臆病だったので

(G) 線部(4)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 熱心に
- 2 穏やかに
- 3 巧みに
- 4 強引に
- 5 冷静に

(H) 線部(5)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 怒りを抑えながら待っていたが
- 2 心の中でひそかに待っていたが
- 3 半ばあきらめながら待っていたが
- 4 待っているふりだけしていたが
- 5 待つてしまうことを恥じていたが

(I) 線部(6)は誰をさすか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 平中
- 2 御たち
- 3 武蔵の守
- 4 武蔵の守のむすめ
- 5 つかふ人

(J) ——— 線部(7)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 訪問する時間的なゆとりがうまく得られないとしても
- 2 恋人のことを思い出す心の余裕をもてないとしても
- 3 だれか他の恋人に愛情が移ってしまったとしても
- 4 人に妨害されたために交際を続けられないとしても
- 5 愛情がさめてしまつて恋人と別れたくなつたとしても

(K) ——— 線部(8)について。その気持ちを表す言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 絶望
- 2 苦悩
- 3 後悔
- 4 嫉妬
- 5 立腹

(L) ——— 線部(9)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 本当に愛していらつしやるのですか。
- 2 もう我慢なさる必要はありません。
- 3 これ以上お待ちしても無駄でしょう。
- 4 昔のお心に戻れないのでしょうか。
- 5 くよくよなさつてはいけません。

(M) ——— 線部(10)の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 他の男との交際を勧めている。
- 2 神仏に祈るようにと諭している。
- 3 男の愛が戻ることを期待している。
- 4 女が出家したら困ると危惧している。
- 5 女が不幸になつたことに同情している。

(N) ——— 線部(11)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 自分で
- 2 ただちに
- 3 軽率に
- 4 思い切って
- 5 ひそかに

(O) ——— 線部(12)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 日々の学問
- 2 仏道のお勤め
- 3 心静かな生活
- 4 修行の旅
- 5 世の中への奉仕

【以下余白】